

特殊詐欺事件顛末記

・2015年3月18日 15:01頃

私が家庭菜園で作業中に、妻から携帯電話で「千葉の警察から電話があり『姉が郵便局で大金を下ろそうとして、郵便局員に止められ、警察が来ている。心当たりがあるか』と聞かれた」との話。妻に畑から早く戻るようにとの連絡を受け、自宅に戻った。

・2015年3月18日 15:20頃

至急、車で千葉の実家に向かった。

・2015年3月18日 16:40～16:50頃

千葉の実家に到着。

その時は、姉が電話で詐欺グループと電話中だった。(相手は不明)

電話中に「そいつは誰だよ」と聞いたが答えはなく、詐欺グループと「弟には話します」「イヤ話さないほうがいい」などとのやり取りが聞こえた。結局話すということで落ち着いた。

電話のあと、姉から事情を聞こうと思って話を聞き始めると、電話がかかかってきて、姉が出たが、「弟が来ているので弟に代わる」と電話を渡された。相手は“警視庁捜査二課のHd”を名乗るもので、今回の事件の一部始終を聞かされた。こちらに考える余裕を与えない作戦のようであった。

要旨は、

「国民生活センター(消費者センターかも?)」から姉に連絡があり、個人情報が出ていたので削除を希望するなら、“K支援販売”に電話するようにとの連絡を受け、姉がそこに電話した。“K支援販売”はボランティア団体であり、入金管理は金融庁が行っている。“K支援販売”に電話すると姉の登録番号を知らされ、その番号は他人には教えてはいけないと言われ、守秘義務があるとも言われた。また、新たに登録を希望する“K.T”という人がいて、新たな登録は3月23日以降になるが、そこに電話するように姉が言われた。電話した結果、その“K.T”という人が、姉の登録番号で1000万円を振り込んでしまい、これは教えてはいけない登録番号を教えたからで名義貸しになり、これは犯罪となる。

(“K.T”は“NHK助け合い”がどうのと言っていたが、はっきり覚えていない。)

“警視庁捜査二課のHd”は、“K支援販売”から相談を受け、まだ告訴状は出されていないので、和解をしたほうが良いとのアドバイスを行っている。

和解金は“K.T”と姉の二人が負担することになると。

告訴状が出され犯罪として扱われるときには、事情を知ってしまった貴方も重要参考人として任意同行などしてもらいがあるかもしれない。」と。

これに対し私は、大学時代の経験から、警察を安易に信用するようには出来ていないので、

「それは私を脅しているつもりか？」と聞くと

「そんなことはありません。市民のための警察ですから、アドバイスしているだけです」

と“警視庁捜査二課のHd”が回答。

また私が

「そもそも姉の個人情報が不正に入手されているのになぜ警察はそれを調べないのか？」と聞くと

“警視庁捜査二課のHd”は

「今となっては調べようがないので無理」と回答。

また私が

「守秘義務があると言っているが、何か契約書を取り交わしているのか？」と聞くと

「契約書は取り交わしていないが、“T”というものが電話で説明し了解しているのが録音にとられており、私も確認した」と“警視庁捜査二課のHd”が回答。

また“警視庁捜査二課のHd”からは

「本件は私しか知らないなので他の捜査員が出て話すな」と電話番号を教えられた。あとで確認すると姉が聞いた電話番号とは別であった。

そのようなやり取りで約33分間通話した。

その後、姉から再度事情を聞こうと思って話したすと、今度は“K 支援販売”の“S”を名乗るものから間を置かずに電話があり、姉が出たがやはり私に代った。

要旨は“警視庁捜査二課の Hd”とほぼ内容は同じだが、

「“K.T”が振り込んだ 1000 万円は東北支援のためのプレハブ購入代金で K 支援販売の東日本支援センターに振込まれた」と言っていた。

さらに

「名義貸しをして振り込まれたので今お金が引き出せずに営業が止まってしまっている。金融庁にも内緒にして穏便に進めたいので、金融庁と会社の上層部に説明するための和解の文章を作っているので和解金を出してもらいたい。そうでないと警察に告発してあなたのお姉さんが逮捕されることになる」

「和解金は“K.T”が購入するプレハブ代金となり、今不正に振り込まれている 1000 万円は金融庁や上層部に説明が済んだら二人に返却される」とも言っていた。

「和解金は札の番号まで確認する」とも言っていた。

私から

「そもそもあなた方が姉の個人情報を不正に入手しているのが事の発端ですよ？」と言うと

「イエイエ、私共は金融庁から情報をいただいているので、不正は全く行っておりません」と“S”が否定。

その通話中、“S”が電話で話す前に同じことを言う声がエコーのように聞こえるので、私は話の内容よりそちらのほうが気になり“S”に

「あなたの前に同じことを言っている奴は誰？」と聞くと、即座に“S”から

「顧問弁護士です、電話代ります」と言って、“弁護士の O”というものに代った。

“弁護士の O”は、また初めから事の顛末の説明を始めたのである程度聞いてから途中で遮った。

途中、ベネッセがどうのこうのという話もしていた。

“弁護士の O”は

「ウチには全く非はなく、またリスクもない。和解金が支払われなければ、告訴するだけであなたのお姉さんが捕まるだけだ。どうするつもりか？」と聞くので

「お金を用意するしかないんですね？」と言って電話を切った。

“O”は指示役、“S”は掛け子か？

なお、その時、お金は誰が取りに来るのか聞いたが、「自分ではなく、ウチのものが取りに行く」と言うので、「大金なので当然身分証明書を持ってくるんですよ」と念を押すと相手は一瞬躊躇した。「社員証ぐらいもっているでしょう」と言うのと躊躇しながら「わかりました」と回答。

詐欺グループの人間はこちらの質問には“社員証”の話以外については即答し、手慣れたプロの感じがした。

その後、姉から事情を聞こうとしたが、混乱していて詐欺グループからの話以上にはほとんど参考になる話は聞けなかった。

姉はまだ騙されている状態で、翌日どこかの金融機関で再度下ろそうと考えていた。

また、警察官が実家に来たにもかかわらず、私が実家に到着した段階では帰っており、なぜ帰ったかを姉に聞くと「今日はお金が下ろせないことが確認できたので帰った」と。

また姉は警察が来たことを詐欺グループにも全く伝えておらず、また警察官が来た時に警察官を家にいれずに詐欺グループに電話をしたようである。

また姉は銀行口座番号を聞かれたようであるが、それは決して教えていなかった。

私は、詐欺事件というより、脅迫事件ではないかと思った。単に相談を受けているだけという“警視庁捜査二課の Hd”というものが、姉が最初に電話を受けてから 3~4 時間しかたっていないのにストーリーの全容を知っていることも不思議に思い、まず“警視庁捜査二課の Hd”が本物であるか偽物であるかを確認しようと思った。

詐欺グループの中に現職の警察官もいる可能性も含め考えた。

姉は“警視庁捜査二課の Hd”から聞いた電話番号にかけ“警視庁捜査二課の Hd”が出たことを確認したので本物だと言い張った。

なお、詐欺グループから聞いた電話番号、警視庁捜査二課の Hd 氏から聞いた電話番号は都内の番号。”K.T”氏の電話番号は大阪の番号だった。

後で捜査員にそれらの電話番号を教えたが、転送電話に設定されていることが多いためか、全く調べようとはしなかった。

・2015年3月18日 18:01頃

私は、自宅に電話してきた千葉中央署刑事二課の“H”さんの電話番号を自宅にいる妻に確認し、また、“K支援販売”なる会社が存在するかどうかインターネットで調べるように頼んだ。

・2015年3月18日 18:03頃

千葉中央署刑事二課の“H”さんに電話し、警視庁捜査二課の電話番号が分かるかどうかを確認した。千葉中央署刑事二課の“H”さんからは状況を説明して欲しい旨何度も頼まれたが、私は現職警察官が関わっている恐れもあると思い「今は言えない」と回答。とりあえず警視庁の電話番号を教えてもらった。電話をした後は、状況を教えて欲しいとも言われ了解した。

警視庁に電話し「警視庁捜査二課の Hd”さんから電話をいただいたが、本当に存在するのかどうか確認したい。もしいるのであれば、本人とは直接話したくないので他の人につないで欲しい」と受付嬢にお願いをした。捜査二課の当直の方と電話がつながり、同様に説明したが、調べた結果、そのような人物はいない、ということと、姉と私に教えられた二つの電話番号も捜査二課のものではない、との回答を得た。また住んでいるところはどこかと聞かれ「詐欺に間違いないので、地元の警察署に連絡するように」と言われた。名前を確認すると“Hg”さんを名乗った。

・2015年3月18日 18:33

妻から“K支援販売”という団体そのものはインターネットでは出てこないとの連絡があり、また“警視庁捜査二課の Hd”が偽物であることが確認できたので、姉にこれは詐欺であると説得した。

・2015年3月18日 18:40

千葉中央署刑事二課の“H”さんに電話した。“Y”さんが出て“H”さんから聞いているとのことだったので、状況を説明。

翌日、捜査協力することになった。

この日は、私は自宅に戻り、19日朝再度実家に向かうことにした。

・2015年3月19日 9:03頃

実家に到着。

すでに姉は詐欺グループから電話があり、銀行からの預金引き出し方法を指示されていた。

すなわち、1行だけでなく複数から孫の誕生日のサプライズで内緒におろしたいという話にしておろすようにという指示だったと。

また千葉中央警察署からもすでに連絡があり、家に向かうとのことであった。

千葉中央警察署から Tm さん、Tn さんと Sm さん(以後“捜査員”)が来られ、Tn さんと Sm さんが家に待機。詐欺グループに渡す札東を見せられ、紙袋を用意。現金引き渡しの指導を受ける。札東の表はオモチャの壱百萬円札だった。捜査員からは必ず「現金だと言って渡せ」との指示があった。

もう一度、“K支援販売”(同じく銀行での下ろし方の指示?)から電話があったが、これから銀行に行くのでしばらくは電話をかけないで欲しいと伝えた。

その後、捜査員は電話に録音機(レッツコーポレーションの“大変だあ〜”)をセットし、会話の録音を開始。

何度か電話があったが応答せず。

・2015年3月19日 10:30頃(?)

タクシーを使って銀行を往復した時間になると判断し、捜査員の指示で姉が“K支援販売”に電話をし、預金をおろしたと伝えた。

詐欺グループからは、受け渡し先と時間を別途指示するとの話であり、12時ころまでには済ませたい意向であった。

受け渡しの場所を指示するまでに、返却するための銀行口座番号を執拗に聞いてきたが、姉は電話では答えられないと断り、現金と一緒にメモを入れると回答。

しかし、受け子のやりくりがつかなくなかったのか、郵送しろとか、大阪に來いとか言ってきたが、現金を取りに来る者が、今大阪に行っているので大阪の用事が済んでから、新幹線に乗って東京まで来て、その後、千葉に向かうとのことで結局、15:00過ぎに、最寄り駅の京成新千葉駅の近くになり、ファミリーマートでの受け渡しとなった。

大阪から東京までの時間は2時間程度、東京から千葉までも2時間弱と、かなりいい加減な時間配分でストーリーを組み立てていた。地理感覚も何かメチャクチャな感じがした。

この時、詐欺グループからは、受け渡しに来る人間は、今日は社員証を忘れていと断ってきた。

姉が札束の入った紙袋を持って出かけ、10~15分後に捜査員が後を追った。この時点で電話の録音は機器を取り外して終了。私は家に残った。電話が何度かあったが、私は電話には出なかった。

また、姉が出る前だったか“K.T”を名乗るものも電話をかけてきた。姉が出たが、“K.T”はX00万円を振り込むか、振り込んだかそのような話をしたように思う。言葉は変な東北弁を装っている感じであった。

・2015年3月19日 16:01頃

捜査員のTnさんから携帯に電話があり、受け子が現れないとのこと。何度か電話がかかっていることを告げると、電話に出るようにとの指示があった。

・2015年3月19日 16:05頃

電話があり、何度も電話したが、なぜでなかったかと聞かれ、「姉を途中まで送って、そのあと用事を済ませて今戻ったところだと答えた」。また受け取りに行っているものが「新千葉」ではなく「新木場」に行っていると。新木場に來いとも言っていたが、行かれないと断る。千葉の地理もよくわかっていない様子。これは、当日、私の詐欺グループとはじめての会話である。

・2015年3月19日 16:12頃

捜査員のTnさんに詐欺グループの話の内容を伝えた。

そのあとすぐに姉が帰ってきた。

姉が詐欺グループに電話し、なぜ取りに来なかったかと問いただしたが、「新木場」と間違えたとか言っていたが、先の指示でファミリーマートの隣の実在する動物病院の話もしていることから、それがでたらめであることを指摘、詐欺グループはいい加減な言い訳の対応をしていた。

次の受け渡し場所は連絡待ちとなったが、なかなか連絡が来ず、結局捜査員と18:00を期限に終了する方針となった。

・2015年3月19日 18:00直前

なかなか連絡が来ないので、私が“K支援販売”に電話すると、脈がありそうな感触となり、継続することとなった。“K支援販売”の“S”が今度は京成千葉駅で場所を選定中と回答、私は、昔の京成千葉(現在の京成千葉中央駅)だと勘違いし、そんな遠いところではだめなのでもっと近いところにしろ、もう一度新千葉に來いと言ったが、あくまでも拒否された。

また一連のやり取りの中で“S”は「先ほど指示した者が、意思疎通がうまくいかずに指示した場所で受け取れなかったが、今度は私が責任を持って指示する」と言うので「どのような責任の取り方をするのか」聞くと「一度受け取った和解金は監督官庁を説得するためのもので後日返却する。返却するX00万円に1万円プラスします」と私が「二人一日つぶしておいて1万円ぽっち？」という「では私のお金の10万円をプラスします」と。

また、最終の場所が決まる前に一度“S”から「この件について知っているのは二人だけですよ」と念を押さ

れ「他には話していない」と答えた。

私は今の京成千葉駅が JR 千葉駅と同じと気がついたがあくまでも近くに来るように“S”に強く迫った。

私の態度が強気だったので、“S”は「こちらはお金を受け取らなくてもいいんですよ。お姉さんが捕まればいい話ですから」と言いだしたので、このまま終わってしまってもはまずいと思い「こっちだって早く解決したくて言っているんだ」とちょっと低姿勢に出るようにした。

詐欺グループは千葉駅(JRを含む)が予想以上に大きな駅なので場所の選定の時間がかかっているとのこと。結局、JR 千葉駅北口広場(人通りが少ないからか?)を指定され、タクシーで来るように指示された。また、私も姉と一緒に来るようにとの指示があった。捜査員が OK を出したので了解した。受け取りに来るのは確か“N”という人物だと言われた。

この時、“S”から携帯電話は持っているかと聞かれたので(実際は持っていたが)「今日は忘れた」と回答した。

また JR 千葉駅北口では、着いたら公衆電話から“K 支援販売”に電話をするように指示があった。

・2015年3月19日 18:30分前後

さっそくタクシーを呼んで千葉駅北口に向かう。(後で検事よりタクシーに乗ったのは18:44と聞いた)

バス停のところで降ろされ、公衆電話を探した。コンビニそばの公衆電話が見つかり、電話をしたが、応答はしなかった。何度も電話をしたが同様。詐欺グループが公衆電話の番号を把握しているのかと思い、別の公衆電話を探すと、反対に電話ボックスがあったのでそこでまた電話をかけるが、何度かけても応答なし。少し時間を置いてまた同じ電話ボックスで電話をかけるが、応答はしなかった。

・2015年3月19日 19:12頃

待っても受け子が現れないので、影の暗いところから捜査員の Tn さんに携帯電話で連絡。電話に応答しないことを伝えたが、もう一度電話をするようにとの指示があった。

再度電話ボックスから電話をしたがやはり応答はなかった。

公衆電話から電話をかけさせるのは受け子に対象の人物であることを知らせることが目的であると後で知った。

・2015年3月19日 19:18頃

仕方なくもう一度、暗いところから捜査員の Tn さんに携帯電話で電話しても応答しない旨連絡したがやはりもう少し待つように指示があった。

捜査員たちがすでに受け子を把握していたようであることを後で知る。

駅北口エレベータボックス横近くのタクシー乗り場付近で姉と一緒に待っていると、スーツ姿の若い人が「川名さんですよ」と声をかけてきた。私ははっきり捜査員かと思い「もう止めますか?」と声に出しそうになったが、その時

「“K 支援販売”の XX です」と言ったので、慌てて出かかった言葉を飲み込み、「N さんですよ?」と聞くと「ハイそうです」と答えた。(「XX」はあとで考えると“奥園”と言っていたような気がする。)

なお、この時“N”のすぐ後ろを捜査員らしき人がぶつかるほど近くですれ違くと、“N”はビクッとしておびえた態度だった。

「渡すものがあります」と言って、姉に紙袋を渡す準備をさせると、“N”から左手に持っていた携帯電話を私に「出てください」と渡された。相手は“S”の声だったと思うので私は「何で電話に出ないんだ」と怒鳴った。すると「電話番号を間違えたのでは?」ととぼける。携帯電話を“S”に返し、捜査員に言われたように紙袋を開いて「現金が入っています」と見せると、覗いた途端「現金は受け取れません」といって、一步後ろに退いた。私は相手が受け取らないと困るので、一瞬戸惑った。“N”は繋がっている携帯電話で相手に「現金が入っています」と伝えた。“N”がまた携帯電話に出ると言うので代ると“S”から「現金は見せちゃダメだって言ったでしょう。見せない約束でしょう。書類だといって渡してください。」と。私は「そうでしたっけ」ととぼける。再度「重要書類だと言って渡してください」と言うので私は「重要書類だといえはいいんですよ」と言って、携帯電話を“N”に返した。“S”と“N”はこの金銭授受の交渉中携帯電話は常に繋ぎっぱなしだったようだ)あとの“S”と“N”のやり取りはわからない。

警察からは「現金と言って渡せ」との指示があり、詐欺グループからは「現金というな」と言われ困った挙句、

すぐに私は“N”に「これは現金が入っているんですが、これを重要書類と言うんだそうです」と言って、“N”に渡すと、“N”は躊躇しながら受け取った。

私は「これは大事なものですので必ず届けてください。よろしくお願いします」と捜査員の指示通り深々とお辞儀をして、また姉にもお辞儀をするように催促し、その場を一步下がったところで、左右から捜査員数人が「今何を受け取った？」と詰め寄り、逮捕となった。“N”は大声で「知らねえよ」と叫んでした。

逮捕の時間は19:30前後と思う。(後で検事より逮捕は19:28と知らされた)



容疑者逮捕直後の取り調べ。ブルーシート上に持ち物全部を並べられる。

逮捕後は、姉と共に調書作成のため千葉中央署へ同行。結局夜10時くらいまでかかった。自宅に戻ったのは12時頃だった。

・2015年3月23日 13:30 過ぎ

千葉中央署の依頼により千葉駅北口で捜査員と共に現場検証(再現)に立ち会う。

現場検証中、中高年の女性が寄って来て「詐欺に気を付けたほうがいい」とのご忠告を頂く。捜査員共々苦笑。

・2015年4月6日 13:00 より

千葉地検にて姉と私と別々に聴取。調書作成後確認まで。地検を出たのは20:00 過ぎ。

・2015年4月9日

千葉地検より公判請求したとの4月9日付の通知をもらう。

・2015年5月19日 13:15

千葉地方裁判所にて公判開始。一人で傍聴した。

容疑者は当初否認していたが、公判直前になって容疑を認めるようになったと。

訴状によれば、容疑者は六本木でナンパしたところ「俺の女に手を出した」と脅され、金銭の要求をされたが、ないので「俺の仕事を手伝えば許してやる」と言われ受け子の仕事をするようになったと。

容疑者の父親も弁明で実家に戻し監視すると。

・2015年5月26日

千葉地裁にて判決言い渡し。

傍聴せず。後日地検より判決内容の連絡通知が来た。

判決内容は「懲役2年6月3年間執行猶予」

結局受け子だけしか捕まらなかった。

・2015年6月10日

判決確定

・2016年4月

姉は心労もあってか、逝去。

通 知 書

平成27年 6月11日

川 名 和 夫 殿

千 葉 地 方 検 察 庁

検察官
担当者

電 話 043-221-2080(代表)

内 線

○に対する詐欺未遂事件(事件番号27-○)の裁判結果は下記のとおりでしたので、通知します。

記

裁判所	千葉地方裁判所
裁判の日	平成27年 5月26日
確定の日	平成27年 6月10日
主 文	懲役2年6月 3年間執行猶予

今後、仮にこの刑の執行猶予の言渡しが取り消され、あなたが希望する場合には、取消後の加害者の処遇状況等に関する通知を受けることができます。

その際は、あらためて当庁からその希望の有無を確認するため連絡します。

なお、この刑の執行猶予が取り消されることなくその期間が満了した場合には、特段の通知や連絡はいたしません。